

超低水位のカチャラ堰（マルワリードⅡ）。水深は取水門床から 70 cmを保ち、びくともしなかった。堰長が伸びている。自然の砂利が巨礫間に埋まってうまい具合に強度を増している。洪水吐に沿って砂利堆積が起き、堰の「石張り面積」が広がったように見える。2017 年 11 月 14 日



同洪水吐近傍の変化。2017 年 11 月 14 日



取水門内の水位を示す。堰板は二段（40 cm）を置き、悠々と取水ができている。2017 年 11 月 14 日



昨年の初回送水試験時の流量。

現在の水位（75 cm）とほぼ同じの時の測量値。推定される現在の流量は下表②で堰板 2 段の状態で、毎秒 2～2.5 m³。全開（④）では毎秒 5 m³に迫る水量が得られる。浚渫のための無効水を加えても十二分量。

							1m upstream from the gate	
survey at	depth (m)	sec./20m	width (m)	V (m/s)	A (m ²)	Q (m ³ /sec)	board at inlet	W.L. at gate (m)
20–40m point	0.15	27.40	7.00	0.73	1.05	0.77	① 3 layers (60cm)	0.73
	0.33	19.60	7.00	1.02	2.31	2.36	② 2 layers (40cm)	0.73
	0.45	16.60	7.00	1.20	3.15	3.80	③ 1 layer (20cm)	0.72
	0.52	15.20	7.00	1.32	3.64	4.79	④ no board	0.70

0.73 m ① 3 layers				13cm		0.72 m ③ 1 layer				12cm
				20cm						20cm
				20cm						20cm
				20cm						20cm
0.73 m ② 2 layers				13cm		0.70 m ④ no board				10cm
				20cm						20cm
				20cm						20cm
				20cm						20cm

主幹水路 1.5 km地点付近の状態。主幹水路は上段を除いて、でき上っている。樹林帯はいつでも植樹できるよう、準備して待っていたが、雨の到来で絶好機。来週より開始される。2017 年 11 月 14 日



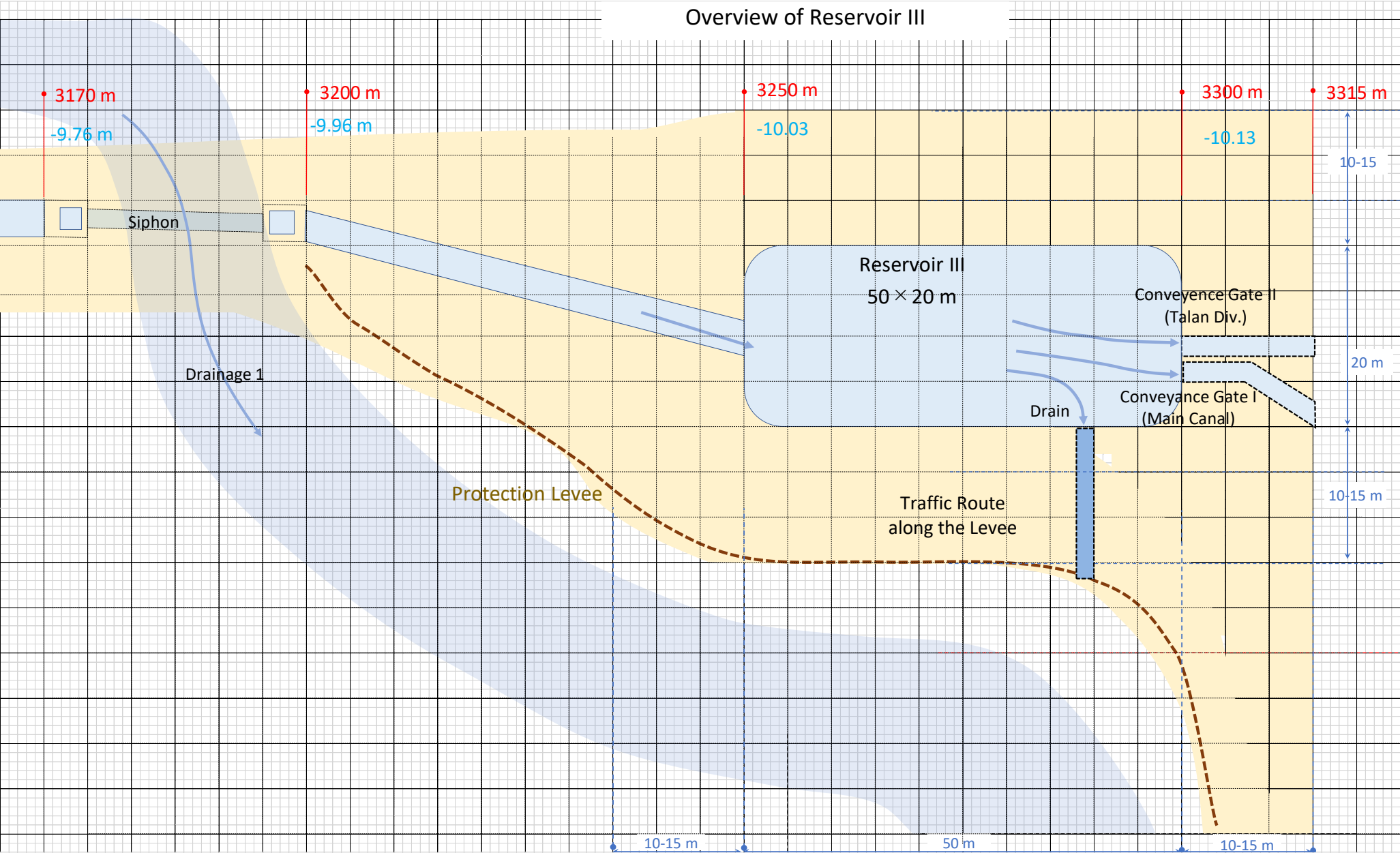
同下流部。2017 年 11 月 14 日



調節池Ⅱ。でき上る寸前で主力が調節池Ⅲに移ってしまい、中断しているが、用水路は3 km地点まででき上っている。洪水侵入の河道は干上がって、ところどころに水溜まりを残すだけとなっている。この1.5 km地点の造作で、タラーン、コーティ各村の湿地が消えた。2017年11月14日



調節池Ⅲの最終案。外壁は堤防を兼ねる。排水路は1 km地点（調節池Ⅰ）、1.5 km地点（調節池Ⅱ）の処置で水量が激減、時折降雨時に小さな鉄砲水が流れる程度。



調節池Ⅲ（3.1～3.2 km地点）。基礎はでき上っている。構造物が多いので少し時間がかかるが、主幹水路の開通時に合わせて完成する予定。2017 年 11 月 14 日



コンクリート構造物は多いが、皆元気がいい。調節池Ⅲの送水門工事。2017 年 11 月 14 日



同排水門と送水門。2017 年 11 月 14 日



サイフォンから上流側を望む（工事のため、排水路は別ルートで排水している）。2017 年 11 月 14 日



調節池Ⅲの外壁基礎。洪水浸入時に備え、堤防（二重堤防の内側）を兼ねる。2017 年 11 月 14 日



主幹水路の 3.6 km地点。コーナーを埋めつぶせば水を流せる。2017 年 11 月 14 日



水路壁の造成もピッチを上げ、一日 40 個（80m で、用水路 40m の両岸）を組む。ライニングとほぼ同じ速さ。2017 年 11 月 14 日

